

第1章 理念・目的

| 点検・評価項目 | | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|--|--|---|-------------------------|--|------------------------------------|--|--|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | | | | | | |
| (1) 理工学部の理念・目的は適切に設定されているか | | | | | | | |
| a | ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】 | 理工学部では、自然の法則と数理の構造を理解し、その知見を礎として科学技術の創出に貢献するデザイン能力あふれる技術者や研究者の育成を目的としている。急激な社会の変化にも適切に対応できるよう、専門的な知識のみならず、正しい自然観と教養を備え、境界領域や新しい分野にも積極的に挑戦できる活力ある人材を養成することが、本学部の教育理念であるとしている。これらの教育理念は学則別表9【1-6-1】において、学科ごとに「人材養成その他教育研究上の目的」として記載しており、「教育・研究に関する年度計画書」にも定めている【1-6-2】。 | | 学則別表9では各学科の「人材養成その他教育研究上の目的」のみが記されており、学部のものがない。そのため、理工学部としての「人材養成その他教育研究上の目的」を設定する必要がある。 | | 総務委員会のもとでWGを設置して原案を構成し、総務委員会・教授会での承認を図る。 | ①現状の説明 1-6-1 明治大学学則別表9 1-6-2 2014年度教育・研究に関する年度計画書 |
| b | ●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】 | 理工学部では、本学の建学の精神を基礎として、大学の理念のもとに責任感と倫理観を持ち、多面的思考のできる国際的感覚にあふれた、広い視野を持つデザイン能力あふれる技術者を育成することを目的としている。また、理工学研究科と一体となった運営と一貫した教育を実現すべく、統一した理念・目的・教育目標及び人材の養成を目指している。将来的な方向性については、2015年度カリキュラム改定に向け教学委員会の下でのWGで新しい目標を議論している。2020年度以降のカリキュラムは将来計画委員会で議論をしている。 | | | | | |
| (2) 理工学部の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか | | | | | | | |
| a | ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】 | 学部の教育理念・目的は、学部長メッセージを通じてホームページ【1-6-3】や学部ガイド【1-6-4：1～2頁】に掲載し、学部の理念・目的をわかりやすく社会に公表している。また、学生向けとして学部便覧【1-6-5：5頁】に理工学部の理念を掲載している。 | | 文章としての掲載だけでなく、教員自らの言葉で学生たちに学部の理念・目的を伝える必要がある。 | | 新入生ガイダンスだけでなく、教員から言葉のメッセージとして伝えていく。 | ①現状の説明 1-6-3 理工学部ホームページ「学部長メッセージ」 http://www.meiji.ac.jp/ssst/outline/gakubuchou.html 1-6-4 理工学部・大学院理工学研究科ガイド2014：1～2頁 1-6-5 2014年度理工学部便覧：5頁 |
| (3) 理工学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか | | | | | | | |
| a | ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】 | 理工学部の理念・目的の適切性の検証は、毎年度、「教育・研究に関する年度計画書」の作成時に行い、社会情勢や学生の学修実態に即して見直しを行っている。手続きは、「執行部」が責任主体となって見直しを行い、執行部(案)を作成し、執行部・各学科長・総合文化教室主任・専攻(系)主任で構成される「総務委員会」を経て、「合同教授会」で承認される。年度計画書は農学部との協議も参考にしながらまとめ、2学部で教育研究を展開する生田キャンパス全体の計画の統一性を図っている【1-6-6】。 | | | | | 1-6-6 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録、2013年7月6日開催、「2014年度「教育・研究年度計画書」提出報告」 |

第3章 教員・教員組織

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|--|--|---|--|--|------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| <p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p> | | | | | | | |
| (1) 理工学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか | | | | | | | |
| a | <p>●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。</p> <p>【約400字】</p> | <p>本学部が現在求める教員像は、「教育・研究の国際化を一層推進するための国際色豊かな教員」であり、このことは「2014年度教育研究に関する長期・中期計画書」に定めている【3-6-1】。教員組織の編制方針は、8つの専門学科および総合文化教室の9つの教員組織それぞれに適切な教員を配置することとしている。なお、数学科・物理学科・応用化学科の教員数は、全学科に共通する理系基礎科目を分担することを考慮して決められている。「2015年度教育研究に関する長期・中期計画書」は教授会で承認しており、共有している。また、将来の社会変化への対応を考慮し、将来計画委員会において、教員組織、学科編成および学生定員などについて、議論を行っている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 3-6-1 2014年度教育・研究に関する年度計画書</p> |
| b | <p>◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。</p> <p>【約450字】</p> | <p>教員の任用・昇格の基準等は、明治大学教員任用規程、明治大学特任教員任用基準、明治大学客員教員任用基準、明治大学RA、TA及び教育補助講師採用規程に基づき「理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規」で定めている【3-6-2】。任用・昇格・採用の手続きに関しては「理工学部専任教員推薦内規」で明文化している【3-6-3】。なお、理工学研究科における教員任用は学部が基礎となっており、教員の所属は学部がベースとなっている。任用・昇格・採用に関する教員採用の募集は公募で行っており、募集要項には本学部の教員資格条件が定められている【3-6-4】。</p> | | | | | <p>①現状の説明 3-6-2 理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規 3-6-3 理工学部専任教員推薦内規 3-6-4 理工学部・理工学研究科ホームページ「教員公募」： http://www.meiji.ac.jp/sst/recruit/</p> |
| c | <p>◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。</p> <p>【約300字】</p> | <p>理工学部の組織的な教育を実施する上において必要な役割分担と責任の所在について、教員は学科もしくは総合文化教室に所属し、所属内での連携は学科会議及び教室会議により図られている。教育研究に関わる最終意思決定は「理工学部・理工学研究科合同教授会」であり、運営は学部長（研究科長兼務）と学部長を補佐する教務主任・大学院委員から成る執行部により行われる。教授会で諮られる案件は、前段階の総務委員会の場でその詳細について審議される。その内容は総務委員会委員から学科・教室の会議を通じて各教員に説明される。そのため教授会の段階では、各教員とも共通の理解のもとで審議が行われる。審議事項によっては、合同教授会の委任事項及び議案確認、他の専門委員会への審議付託、学科会議等への諮問等審議案件の取扱いについて協議・審議する「総務委員会」で扱われる【3-6-5】。なお、合同教授会とは、「理工学部及び理工学研究科の合同運営に関する内規」で制定された会議体である【3-6-6】。理工学部及び理工学研究科の合同運営に関する内規【3-6-7】では理工学部（研究科も含む）に設置している会議体の連関を組織図に示しており、これに基づき所属教員を各委員会に適切に配置している。</p> | | | | | <p>①現状の説明 3-6-5 専門委員会に関する内規 3-6-6 理工学部教授会及び理工学研究科委員会の合同開催（合同教授会）に関する内規 3-6-7 理工学部及び理工学研究科の合同運営に関する内規（組織図含む）・委員会名簿</p> |
| (2) 理工学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか | | | | | | | |
| 教員の編成方針に沿った教員組織の整備 | | | | | | | |
| a | <p>◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項）</p> <p>【約400字】</p> | <p>設置基準上の必要教員数は77名に対し、専任教員数は163名である【3-6-8：表2】。本学部は学部4年間と大学院2年間の連携教育を重視していることから、教員組織の整備については大学院を含めて考える必要がある。「教育・研究に関する年度計画書」に定めた整備方針である「大学院理工学研究科の教育・研究活動の進展をも視野に入れ、最終的には約180名の教員組織とすること」から判断すると、より充実した教員組織を作り上げていく必要がある。なお、専任教員一人当たりの学生数について、収容定員ベースでは22.7名、学生現員ベースでは26.0名である【3-6-8：表13】。教員組織のバランスについては、教員全体における専任が占める割合（人数比）は35.5%で、専任教員の平均年齢は51.3歳であり、全体的にバランスの取れた年齢構成になっている。また、外国人教員は2名、女性教員は10名在籍している【3-6-8：表14】。</p> | | | | | <p>①現状の説明 3-6-8 明治大学データ集</p> |
| b | <p>◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。</p> <p>【600～800字】</p> | <p>教員組織の編制実態について、資格別平均授業担当時間数は、教授18.5時間、准教授18.2時間、専任講師16.4時間（大学院の授業担当数を含む）であり、それぞれの資格における責任担当時間である教授の10時間、准教授の8時間、講師の6時間をはるかに超え、超過時間手当の支払い対象となっている【3-6-6：表13】。各学科の必修科目においては約7割以上のコマを専任教員が担当しており、自由科目において非常勤講師による多様な講義が行われている。学部全体における専兼比率は、2012年度は52.2%であり2013年度は53.2%となっており、カリキュラムの見直しに際して、年々専任教員の担当比率は高まっている【3-6-6：表16】。</p> | <p>教員の授業負担を考慮し、2015年度カリキュラム改定WGでは、22時間を各教員の持ち時間数最大値を目標とした【3-6-9】。</p> | <p>大学院科目の隔年開講など、さまざまな方法で、さらなる授業負担の軽減に取り組む。</p> | | | <p>①現状の説明 3-6-8 明治大学データ集 3-6-9 教学委員会、2013年11月5日、審議事項7「2015年度カリキュラム改定WG報告について」</p> |

| 点検・評価項目 | | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|--|--|---|---|--|----------------------------|---|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | | | | | | | Alt+Enterで箇条書きに |
| 教員組織を検証する仕組みの整備 | | | | | | | | |
| c | ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】 | 学部の執行部・各学科により教員・教員組織の検証を行い、検証結果を「学部教員任用計画」と「教育・研究に関する年度計画書」に執行部(案)としてまとめ、合同教授会で承認している【3-6-1, 3-6-10】。具体的には、単年度計画は、学部の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検証し、次年度の「学部教員任用計画」に反映させている。また、長中期計画は自己点検・評価結果を参考として、教員・教員組織の検証を行い、その編制方針の見直しを行い、教育・研究に関する年度計画書」に反映させている。 | | | | | | ①現状の説明 3-6-1 2014年度教育・研究に関する年度計画書 3-6-10 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録, 2013年3月14日開催, 議題2「2014年度専任教員任用計画について」 |
| (3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか | | | | | | | | |
| a | ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】 | 任用・昇格については2013年8月に「理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規」を制定し【3-6-11】、大学で定める諸規程を踏まえつつ、内規に基づき審査している。また、教員採用時の公募要項には本学部の教員資格条件が定められている。教員の募集は公募により行っており、教員公募の際に、研究業績や教育業績等の評価に加えて私立大学の現状や課題に理解があることをもう1つの観点とし、教員採用を行っている。選考過程におけるやり取り(面接等)の中で、教員の使命と役割を明確化している。昇格・任用人事は、内規に従い、総務委員会にて各学科に対して周知し、合同教授会にて専任教員選考委員会の設置を承認する。専任教員選考委員会終了後、総務委員会での結果報告を経て理工学部・理工学研究科合同教授会にて投票することにより決定する【3-6-3】。教員任用に関して、授業科目と担当教員の適合性は、教員任用に際して設置する専任教員選考委員会において審議している。任用過程としては、各学科会議からの依頼を受けて、各学科の教員によって構成される人事選考委員会で審議され、審査報告書を基に教授会で承認を得る【3-6-3】。昇格については、人事選考委員会を設置して昇格審査を行い、授業科目担当教員の適合性を判断している【3-6-3】。 | 2013年3月の学部長会で行われた教員任用に関する申し合わせを受けて、理工学部の教員任用・昇格に関する内規の改定を行い、実務系教員の採用の規定が明確化された。その結果、教員の任用・昇格の基準が明確となり、2013年度の全ての採用・昇格に対する、人事選考委員会、総務委員会、合同教授会の審議において、審査が膠着することなく進んだ。 | | 新内規の施行後は不自然な点や不具合が生じないかの検証を行い、必要なら更なる改善を行う。 | | | ①現状の説明 3-6-3 理工学部専任教員推薦内規 3-6-11 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録, 2013年8月1日, 議題1(4)「理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規(案)の制定について」 |
| (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか | | | | | | | | |
| 教員の教育研究活動等の評価の実施 | | | | | | | | |
| a | ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】 | 教育・研究活動の活性化に資する業績評価については、理工学部独自に教育貢献賞を制定し(2006年7月)、「理工学部・理工学研究科教育貢献賞に関する内規」【3-6-12】に基づき、質の高い特色ある授業等を展開している教員に対して表彰を行っている。2013年度は、2名の教員が表彰を受けた【3-6-13】。手続きとしては、各学科長・専攻(系)主任・教室主任から推薦のあった教員をFD委員会で選考し、総務委員会で受賞者に関する議を経て、理工学部・理工学研究科合同教授会で決定される。また、研究委員会では、「理工学部研究報告」を発行しており、査読を行っているため、質の高い論文の投稿がなされている。さらに、同委員会では所属する教員から研究スペース・大型機器予算の配分等の申請を受け付け、それぞれの研究を評価している。このことにより研究活動の活性化に努めている。 | | 教育活動に伴う負担が一部の教員に偏る傾向がある。より多くの教員が教育活動に関わっていくシステムを構築する必要がある。 | | 教学とFDの共同作業として、教育業務全般の見直しを行い、各教員がそれぞれの得意分野で力が発揮できるような体系を構築する。 | | ①現状の説明 3-6-12 理工学部・理工学研究科教育貢献賞に関する内規 3-6-13 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録, 2013年6月14日, 議題12(1)「教育貢献賞について」 |
| 教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性 | | | | | | | | |
| b | ●教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 (※)社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600～800字】 | 教員の資質向上を図るための研修等については、安全・教育講習会を毎年実施し新任教員の参加を義務づけている【3-6-14】。さらに、2013年7月12日に理工学部教授井上善幸先生が「海外研修報告～ネブラスカ大学のFDプログラムに参加して～」の内容での講演を実施した。同日に理工学部教授井口幸洋先生が「学生・保護者・教員間のトラブルの実態」の内容での講演を実施した。また、2013年11月29日には情報コミュニケーション学部教授細野はるみ先生を招いて、「共生社会にふさわしいキャンパス実現に向けて」の内容での講演を実施した【3-6-15】。学部8学科、研究科6専攻と分野が多岐にわたっていることから分野を超えた教員の交流と研究発表の場として「生田サロン」を開催している。2013年度は6月28日及び12月6日の2回実施し、計4名の教員が発表し、交流を図った【3-6-16】。毎年周辺地域の小学生・中学生・高校生を対象とした夏休み科学教室を理工学部各学科所属教員が直接地元の子供たちに科学技術の楽しさを教えるとともに、専門分野をかみ砕いて説明する能力や教育技能の向上につながっている【3-6-17】。 | | 様々な研修が行われているが、それらを系統的に俯瞰できるシステムがない。その結果、教員参加の状況も把握しているが、活用まで及んでいない。 | | FD委員会と自己点検評価委員会の関係を密接にして、情報の共有化を図る。そのことにより反省すべき点の改善化を迅速にする。 | 教員研修に関するポートフォリオのシステムを構築する。 | ①現状の説明 3-6-14 薬品・高圧ガス・液体窒素・X線装置を使用する研究室関係者対象の安全教育講習会について 3-6-15 2013年度FD講演会実施報告 3-6-16 生田サロンチラシ「生田サロンのお誘い」 3-6-17 夏休み科学教室ホームページ： http://www.meiji.ac.jp/sst/summerbreak/science/ |

第4章 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | | | 根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに |
|--|--|--|----------------------------------|--|--|-------------------------------------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。 | | | | | | | |
| a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】 | 理工学部は、学則別表9に学科ごとに「人材養成その他教育研究上の目的」として教育目標を明示している【4(1)-6-1】。ものごとの本質を探究する理学とその理学を応用して人間の幸せを実現する工学は、車の両輪のように切り離すことはできない。そのような考えのもと、理工学部では理学と工学の融合を教育の理念としている【4(1)-6-2:5頁】。これを踏まえて学位授与方針において、「責任感と倫理観を持ち、国際感覚にあふれ、多面的な思考力と広い視野を持ち、科学・技術教育全般から得られる知識と経験などをもとに自ら問題を発見し解決する能力、すなわちデザイン能力あふれる技術者や研究者を育成すること」を到達目標としている【4(1)-6-3:7頁】。また、所定の要件を満たし、必要修得単位数132単位を修得した者に「学士(工学・理学)」の学位を授与している。 | 40%近い大学院進学率は、この学位授与方針に則った教育がある程度成功しているものとみることができる【4(1)-6-4】。 | | 「講演会：キャリアとしての大学院進学」を通じて、大学院の修了がキャリアパスにつながることを理解させ、より優秀な学生を理工学研究科に送り出す【4(1)-6-5】。 | | | ①現状の説明 4(1)-6-1 明治大学学則別表9 4(1)-6-2 2014年度理工学部便覧：5頁 4(1)-6-3 2014年度理工学部便覧：7頁 ②評価 4(1)-6-4 教務部委員会資料、2014年5月20日開催、資料No.14 4(1)-6-5 講演会：キャリアとしての大学院進学～家族で考える大学院進学～ |
| (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。 | | | | | | | |
| a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】 | 学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育内容や教育方法の基本的考え方として、教育課程の編成理念、編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を、教授会において定めている(2010年9月10日開催)。2013年度に理工学部3ポリシーの見直しを行い、修正した【4(1)-6-6】。理工学部では、理学と工学を融合したカリキュラムを構成し、双方の資質を兼ね備え、科学技術に対する広い教養と専門的な知識を礎として社会の諸問題に対処できる技術者や研究者を育成することを教育課程の理念とし【4(1)-6-7:6頁】、語学科目、理系基礎科目、各学科専門科目を体系的段階的に履修できるようになっている。2015年カリキュラムからは理工学部の理念を再確認し、バランス性のある理系基礎科目履修体制をとることとした。 | | | | | | ①現状の説明 4(1)-6-6 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録、2013年11月15日開催、「理工学部3ポリシーについて」 4(1)-6-7 2014年度理工学部便覧：6頁 |
| b ●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】 | 「教育課程編成・実施方針」に沿った理学と工学を融合したカリキュラム、無学科学科混合制、実用英語教育、ゼミナール・卒業研究・卒業設計の少人数実践教育などによって、「学位授与方針」に示される責任感と倫理観を持ち、国際感覚にあふれ、多面的な思考力と広い視野を持ち、科学・技術教育全般から得られる知識と経験などをもとに自ら問題を発見し解決する能力、すなわちデザイン能力あふれる技術者や研究者を育成し、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針を連関させている。 | | | | | | |
| (3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員及び学生等)に周知され、社会に公表されているか | | | | | | | |
| a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】 | 学部便覧に教育課程編成・実施方針が示されており【4(1)-6-6:6頁】、ガイダンス時に配付して教職員及び学生に周知している。学位授与方針及び教育課程編成・実施方針はホームページで公開されているだけでなく【4(1)-6-8~9】、自己点検・評価報告書に記載される形で、自己点検・評価委員会にて審議・検討され、さらに学科会議を通じて全教員に周知徹底されている。2013年度に「学修環境に関する学生アンケート」において、当学部所属学生に、所属学部の3つのポリシー(「入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)」・「教育課程の編成方針(カリキュラムポリシー)」・「学位授与方針(ディプロマポリシー)」)の認知度を測った。「知っている・だいたい知っている」という肯定的な意見が、28.4%であった【4(1)-6-10】。 | | 3ポリシーの認知度が低いため、これを上げていくことが必要である。 | | | 新入生へのメッセージとして、入学時ガイダンス等でポリシーを取り上げる。 | ①現状の説明 4(1)-6-7 2014年度理工学部便覧：6頁 4(1)-6-8 理工学部ホームページ「理工学部学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」： http://www.meiji.ac.jp/sst/policy/02.html 4(1)-6-9 理工学部ホームページ「理工学部の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)」： http://www.meiji.ac.jp/sst/policy/01.html 4(1)-6-10 学修環境に関する学生アンケート |
| (4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか | | | | | | | |
| a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】 | 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の検証プロセスは、まず、「自己点検・評価委員会」にて行われる。その後検討の必要がある場合は、理工学部・理工学研究科執行部で執行部(案)を作成し、「教学委員会」、「総務委員会」、「研究科委員会」で審議され、承認後に発令されることになる。科学技術の進歩によって社会から期待される理工学分野の技術者の定義は常に変化するため、新たな人材育成の教育課程についての議論を行い、2013年度は3ポリシーの修正を行った【4(1)-6-6】。 | 5年ごとのカリキュラム改定によって、教育方針を社会のニーズなどに直ちに反応できるようになっている。 | | 今回のカリキュラム改定ではプロジェクト型の演習を取り入れることになった。 | | | ①現状の説明 4(1)-6-6 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録、2013年11月15日開催、「理工学部3ポリシーについて」 |

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | | |
|--|--|---|---|--|--|------|--|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | | (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| (1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか | | | | | | | | |
| 必要な授業科目の開設状況 | | | | | | | | |
| a | ◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】 | <p>本学部は、教育課程の編成・実施方針に従い、「理学と工学の双方の資質を兼ね備え、幅広い教養を身に着けるため」に総合文化科目・理系基礎科目・共通基礎専門科目・複合領域科目を設置し、専門的な知識を体系的に築くために8つの学科（電気電子生命学科、機械工学科、機械情報工学科、建築学科、応用化学科、情報科学科、数学科、物理学科）を設置している。各学科は以下の様に科目を設置している【4(2)-6-1:表17・18】。</p> <p>電気電子生命学科では、4分野（環境・エネルギー、ナノテクノロジー・材料、情報通信、生命科学）を扱い、電気回路、電気磁気学、情報処理、生命科学を導入教育の柱としている。2年次以上では、コンピュータシミュレーション実習や実験科目を通じ、理論の理解を深めるとともに、互いのコミュニケーションを図り、実践力を養う。3年次前期開始前にゼミに配属し、ゼミナール・研究活動を通じて問題解決能力やプレゼン能力を養う。</p> <p>機械工学科は、主要4力学をクラス別演習付きの講義科目で実施し、導入教育の柱としている。その後、実験及び設計製図を中心とした専門教育と技術者倫理教育を行い、4年次にゼミに配属し、少人数によるゼミナールとゼミ担当教員から直接指導を受ける卒業研究へと続く。</p> <p>機械情報工学科は、初年度、機械系基礎科目及び情報系基礎科目を教育の柱としている。情報系基礎科目はクラス別演習付きとしている。実験科目ではプレゼンテーションを課し、コミュニケーションスキルの向上を図っている。設計製図では、検図・諮問によって技術の向上と理解度の保証を行っている。また、3年次に配属される研究室で、担当教員によるゼミナールでの指導を受ける。さらに、4年次に引き続き卒業研究の指導を受け、最終審査会では複数教員に対するプレゼンテーションを行い、質の保証を図っている。</p> <p>建築学科は、総合的な講義科目、専門教育の講義・演習科目、建築設計演習の実施により、建築技術者としての基礎力を育てる。4年次には、卒業研究・卒業設計を少人数教育で実施し、総合力・専門力を磨くとともに、コミュニケーション能力やプレゼン能力を涵養する。卒業研究は、中間報告会及び最終審査会を実施し、複数教員による審査によって質保証を図っている。</p> <p>応用化学科は、共通基礎専門の化学分野及び分析化学基礎を化学実験への導入科目とする。実験操作を修得する応用化学実験とコンピュータ解析を学ぶ化学情報実験の実験科目を重点に、安全教育と化学分野の専門教育を行う。研究室配属後は、少人数のゼミナールと各専門分野での卒業研究へと続く。卒業研究は日常の議論、中間発表、卒業審査会等を実施し、発表の仕方、研究の進め方、データ解析の研究に必要なスキルを身につける。</p> <p>情報科学科は、少人数のグループで各教員の専門に触れるゼミナール1を導入教育の中心とする。専門教育は、実習・演習に重点を置いて、基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、広領域応用の四つの分野の科目をバランスよく配置している。3年次後期から研究室に所属して、ゼミナール2と卒業研究を履修する。</p> <p>数学科は、代数学・幾何学・解析学をカリキュラムの中軸におき、数理教育や情報科学についても学ぶ。初年次教育を重視し、ゼミナールAにて少人数教育を実践している。3年次後期より研究室に配属され、ゼミナールBと卒業条件1・2を通じて数学に対する理解を深めるとともに、プレゼン能力の向上を目指す。</p> <p>物理学科は、古典物理学から現代物理学に至る物理学の学問体系（力学、電磁気学、熱・統計力学、量子力学、相対論）を系統的に学べるようにカリキュラムを構成している。基幹科目には演習科目を設置して実践的な理解を深めるとともに、充実した実験科目群によって自然観の醸成を促す。4年次のゼミ・卒業研究では、研究を通じて問題解決能力やコミュニケーション能力などを育成している。</p> <p>機械工学科、機械情報工学科のカリキュラムは、2005年度からJABEE(日本技術者認定機構)によってJABEEプログラムの認定を受けている。そのため、JABEE基準にあわせて、学習時間1,600時間以上を132単位で確保できるように、必修科目、選択必修科目が設置されている。</p> <p>学部共通事項として、国際化時代にふさわしい視野と教養を身に着けるため、英語の履修だけでなく第2外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語)を置いている。さらにスポーツ特別入試入学者と英語未習留学生向けに特設クラスを設置し、外国語能力の育成を図っている。</p> | <p>機械情報工学科では、外部評価の自己点検によって、学科の理念・目的と将来目標・計画を明確にすることができた。さらに、評価結果を受けて、現在の社会の状況や要望を踏まえた人材育成のための教育カリキュラムの妥当性を検証することができた【4(2)-6-2】。</p> | | <p>すべての学科が外部評価による自己点検を適切な間隔において定期的実施するのが望ましいため、外部評価導入について、自己点検・評価委員会において検討を行う。</p> | | | <p>①現状の説明 4(2)-6-1 明治大学データ集：表17・18 4(2)-6-2 明治大学 理工学部 機械情報工学科 外部評価議事録</p> |
| b | ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】 | <p>教養科目の設置については、1・2年生を対象に開講される少人数制の教養教育科目「総合文化ゼミナール」において、広く思想、歴史、文学、芸術、保健体育、理系などの人文的教養を身につけることで、豊かな人間性を養うことを目的としている。多くの新入生がこれらのゼミの履修によってディスカッションやプレゼンテーションといった大学の授業に慣れる機会を与える。3・4年生向けには「総合文化講義科目」として人文・社会系を中心とした科目を設置し、進学や就職をひかえた学生に自らの専門と社会・文化とのかかわりを再考してもらう機会を設けている【4(2)-6-3】。3・4年次に設置されている総合文化科目は、2年間で培った基礎学力を土台として、深い洞察力・柔軟な思考・独創的な発想・新鮮な知識欲を啓発するだけでなく卒業後も生涯学習の道しるべとするを目的に、第一線で活躍する人文・社会分野の研究者たちによる講義を開講している。また、複合領域科目群を設置しており、学科を横断するような理系科目から就職キャリア支援講座といった実社会に触れる科目など多岐にわたる科目を設置することで、学生の好奇心を刺激している。</p> | | <p>総合文化ゼミナールでは人気のあるゼミに人数が偏り、選抜が行われている。</p> | <p>多くの専任教員に総合文化ゼミナールの参加を呼びかけ分散化を図る。</p> | | <p>①現状の説明 4(2)-6-3 理工学部ホームページ「総合文化ゼミナール」:http://www.meiji.ac.jp/sst/sougou/sougou.html</p> | |
| 順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など） | | | | | | | | |
| c | ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】 | <p>順次的・体系的な履修への配慮として、1・2年次は総合文化ゼミナール、外国語、健康・スポーツ学、理系基礎科目及び共通基礎専門科目を中心として、3年次は学科専門科目が中心となり、それぞれの学科の特色に合わせて、科目を配置している。4年次はより専門的な学科専門科目、ゼミナール、卒業研究・卒業設計が配置されている。「科目の相関・体系図」は便覧【4(2)-6-2:36頁,48頁,61頁,73頁,81頁,88頁,96頁,104頁】に記載し、4月の各学年ガイダンス時に詳細を説明している。また、4年間の履修モデルを学部ガイドに掲載し、理工学部のカリキュラムを明確に示している【4(2)-6-3:11頁,15頁,19頁,23頁,27頁,31頁,35頁,39頁,43頁】。</p> | | | | | <p>①現状の説明 4(2)-6-4 2014年度理工学部便覧:36頁,48頁,61頁,73頁,81頁,88頁,96頁,104頁</p> | |
| 教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性 | | | | | | | | |
| d | ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか | <p>教育課程の検証プロセスについて、カリキュラムの見直しは社会変化や学生のニーズに応じて5年ごとに検証されており、次の改定は2015年度の予定である。カリキュラム改定のプロセスは、「教学委員会」の下、各学科・総合文化教室の教員で構成されるWGを立ち上げて、改定の方針を協議し具体的な内容が作成され、その後「理工学部・理工学研究科合同教授会」で承認を得る。なお、各学科・教室においてカリキュラム改定を実施した方が教育効果を高められると判断した場合は、単年度に改定されることもある。2012年度に、カリキュラム改定WGを設置し、現行のカリキュラムの検証を行い、2015年度カリキュラムの方針を「理系人としての基礎学力と教養の醸成」と位置付けた。2013年度には9回にわたりカリキュラム改定WGを開き、2012年度WGの答申（以下、2012年度答申）に対する議論を重ねた。2013年度WGでは、先の方針に沿って理系基礎科目の再編を目指した。具体的には、各科目の改廃はもちろんのこと、理系基礎科目に対する全学科共通のミニマム・リクワイアメントを定め、理工学部生が、所属する学科分野に関わらず、理系基礎科目を万遍なく修得できるカリキュラムを定めた。この2013年度WGの報告をもとに手続きが進められ、2015年度カリキュラム改定に関わる学則別表の改定は2013年度内の教授会で承認され【4(2)-6-5】、現在は、クラス編成等の実施に向けての具体的な詳細を詰めている。なお、2013年度は機械情報工学科において、人材育成と専門分野の研究取組状況の評価を受け、他大学、他高校、民間企業より1名ずつ外部評価委員を招き、外部評価を受けた。</p> | <p>2015年度の改定版カリキュラムを検討する際、「理系人としての基礎学力と教養の醸成」という全学科共通の目標を共有し、理系基礎科目を万遍なく修得できるカリキュラムを定めることができた。</p> <p>国際的な人材を育成するために、「日本ASEAN相互理解プログラム科目」「グローバル人材育成プログラム科目」「国際人材育成プログラム科目」から2単位を上限として、卒業条件に含むことができるものとした。また、複合領域科目として「国際実習」の科目設置を定めた。</p> | | <p>カリキュラム改定の方針に沿って、2015年度カリキュラムを適切に運用していく。</p> | | <p>①現状の説明 4(2)-6-5 理工学部・理工学研究科議事録、2014年2月27日開催、議題3「明治大学学則の一部改正について」</p> | |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|---------|-------|-------------------------|----------------------|------------------------------------|--|------|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | |

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか

| 教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか） | | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|--|--|--|--|
| a | <p>◎何を教えているのか、どのように教育目標の実現を図っているのか。</p> <p>【1200字程度】</p> <p>※教育の内容そのものですので、しっかりと説明願います。</p> | <p>電気電子生命学科では、1年前期の「電気電子生命概論」にて、最新の多岐に亘る各研究分野の基礎と最新のトピックスをオムニバス形式で紹介し、各研究分野で必要となる科目・領域について理解を深める。さらに、学科で扱う4分野を理解するための主要な必修科目として、「基礎電気回路1・2」「基礎電気磁気学1・2」「情報処理演習1・2」「生命科学1・2」「基礎演習」を位置づけ、低学年でクラス別演習付きの講義を実施している。2年次以上では、「コンピュータシミュレーション1・2」や「電気電子生命実験1A・1B・2・3」等の実験・実習科目を通じ、理論的理解とコミュニケーションスキルの涵養を図る。学生は3年次前期開始前にゼミへ配属され、指導教員より卒業研究を遂行するために必要な専門科目の履修指導を受ける。3年次以降は「アナログおよびデジタル電子回路設計」や「機器設計」等を通じ、CADや製図に必要な技術を育成する。最終的に、3年次後期の「ゼミナール1」と4年次の「ゼミナール2」、「卒業研究1・2」を通じて、理解度を深めるとともに課題解決能力やプレゼン能力を養い、ゼミ毎あるいは複数担当教員による中間及び最終発表会を開催し、学位の質保証を図っている。</p> <p>機械工学科では、「固体の力学」「流れ学・演習」「熱力学・演習」「機械力学・演習」を機械工学の主要な4力学を修得するための科目と位置づけ、クラス別演習付きの講義科目を低学年で実施し、導入教育の柱とする。その後、「機械製図」でJISに準拠した図面作成の基礎を学び、「機械設計製図1」で歯車減速機等を設計し手書き図面を作成する。さらに「機械設計製図2」でディーゼルエンジンの設計を行い、CADで図面を作成する。これらはすべて必修科目となっている。選択必修科目である「メカトロニクス実習」は自走式ロボット的设计・政策を行い、グループ形式で実施する。また、必修科目である「卒業研究」は研究室に所属しながら各自が指導教員より与えられた研究を行い、中間審査会及び最終審査会にて成果を報告し、複数担当教員が審査することにより質保証を図っている。</p> <p>機械情報工学科では、「機械情報工学」「工業力学1及び2・演習」「材料力学1・演習」などで機械工学の基礎を教え、「データ解析・演習」「情報処理・演習1及び2」「数値処理演習」などで情報の基礎を教えている。その後、「製図CAD1及び2」で機械製図の基礎を学び、「機械システム設計製図」「メカトロ設計製図」では、指南車、ロボットアームの設計を通して、設計のプロセスを学んでいる。実験科目としては、「機械情報工学実験」、「メカトロニクス実験」の中で、学科専門科目で学んだことを中心に実験を通して理解を深めている。特に「メカトロニクス実験」の中で実施されるエンジニアリングデザインでは、グループ形式で1つの課題に取り組んでいる。学生は、所属した研究室で「卒業研究1及び2」に取り組み、ポスター形式の卒業研究発表会を実施している。</p> <p>建築学科では、建築製図基礎、建築設計1・2・3の設計演習科目を最も重要な科目として位置付け、これらの科目により、図面の読み・書きから始まり、実際の設計行為を通して計画・デザイン力の習得を図る。また、2年次までに配置されている建築・都市デザイン&プランニング分野（計画系）、環境・設備エンジニアリング分野（環境系）及び構造・材料エンジニアリング分野（構造系）の包括的な基礎科目を通して、建築分野の幅広い基礎力を習得する。3年次以降は、各系の専門的な基礎科目によって、学生自らが将来の職能を意識した知識・技術力を習得する。特に、4年次の卒業研究・卒業設計は、少人数教育で実施し、総合力・専門力を磨くとともに、コミュニケーション能力やプレゼン能力も涵養する。卒業研究は、中間報告会及び最終審査会を実施し、複数教員による審査によって質保証を図っている。</p> <p>応用化学科では、「フラスコからコンピュータまで扱える科学者・研究者・技術者」の育成を目標に、特に実験科目に重点をおいたカリキュラムを編成している。カリキュラムを通じて、化学工業、物性、構造、反応に関する化学技術、さらにはコンピュータシミュレーション技術にも対応できる広範囲な研究と教育の実現を目指している。1年次には、「基礎化学」「周期表の化学」「反応と合成の化学」「構造と物性の化学」「分析化学基礎」といった化学一般を必修科目として学び、2～4年次は、分析化学、無機化学、有機化学、高分子化学、物理化学、化学工学、それぞれの分野における高度な応用までを幅広く修得できる卒業条件としている。また、「応用化学概論1・2」では、複数担当者が化学に関連する話題や最新の技術をわかりやすくオムニバス形式で解説するとともに、卒業生によるゼミ形式での少人数の対話型授業も試みている。実験科目の一つである「化学情報実験」では、一人一台のコンピュータを使って様々なシミュレーション実験を行い、多角的な化学のイメージを習得できるように配慮している。さらに、実験器具を扱う「基礎化学実験1・2」「応用化学実験1～4」を併せて履修することで、幅広い化学実験を学び、「卒業研究」「ゼミナール」につなげる仕組みとなっている。最終的には、「卒業研究」で研究室に配属され各自が指導教員より与えられた研究を実施し、数回の中間発表会にて成果をプレゼンし、卒業論文審査会による審査を実施することで、学位の質保証を図っている。</p> <p>情報科学科では、1年前期の「ゼミナール1」を中心とした導入科目の他に、総合文化科目、理系基礎科目により低学年で幅広い知識の修得を図り、高学年になるにつれて、より情報科学の専門的な科目を学んでいく。「離散数学」では基礎理論を学び、「スイッチング理論と論理設計1」「コンピュータアーキテクチャ」ではハードウェアを学び、「データ構造とアルゴリズム1・2」ではソフトウェアを学び、「コンピュータネットワーク」では広領域応用を学ぶ。そして、これら4分野をバランス良く学ぶことが可能となるようにその他の専門科目を配置している。また、コンピュータを活用した演習・実習に重点を置き、「情報処理・演習1・2」「プログラム実習1・2」「データ構造とアルゴリズム実習1・2」「ハードウェア実習」「ソフトウェア実習」「Java演習」を配置し実践的な力をつけることを重視している。3年次後期の「ゼミナール2」では、卒業研究を行うための導入教育を行う。最終的には4年次の「卒業研究1・2」において、各学生は所属する研究室の指導教員から個別指導を受けながら情報科学技術の研究を実施する。卒業研究論文の提出や卒業研究成果発表会を通して、指導教員が各学生の到達度やプレゼンスキルを確認することにより、学位の質保証を図っている。</p> <p>数学科では、1年前期の「ゼミナールA」において少人数教育を実践し、大学で数学を学ぶ意義を理解させ、躰きの軽減を図っている。また、双方向の授業を展開し、学生のコミュニケーションスキルの向上も目指している。さらに1年次の「数学演習1・2」は大学数学の導入科目の役割を担っている。2年次の科目は、1年次の「基礎数学1～4」に続き「ベクトル空間論」「多変数の微分積分学1・2」といった線型代数・微分積分を学ぶ科目を中心としており、「代数概論」「曲線曲面論」のように代数学・幾何学の概論や導入を学ぶ科目も用意されている。1・2年次の科目のほとんどを必修科目としており、その学習内容は3年次の「代数学1・2」「幾何学1・2」、解析学の科目である「微分方程式1・2」「実解析1・2」といった専門的かつ発展的内容へと繋がっていく。なお、情報科学については「プログラミング演習」「計算数理」といった科目が用意されている。数理教育の科目については「数理教育1・2」を開設し、理工系・数学科としては特長的な授業内容を展開している。最終的には、3年次後期の「ゼミナールB」と4年次の「卒業研究1・2」において数学という学問への理解を深め、専門分野ごとに行う卒業論文発表会にて、各学生の到達度やプレゼンテーションスキルを複数の教員で確認することにより、学位の質保証を目指している。</p> <p>物理学科では、講義や実験を通じて物理の知識や論理的思考力を身につけることで、社会で活躍する人材の育成を目指している。物理学の体系的理解を目標として、低学年に各基幹科目の導入教育も兼ねた基礎的内容を持つ科目をそれぞれ設置し、その理解のうえに高学年次にかけて各関連科目を設置している。初年時の「物理学演習1・2」から2年次の「力学1・2」では、物理学の基礎となる古典力学を体系的に学習する。また基幹科目として「量子論序説」や「熱力学」を低学年に設置し、「量子力学1・2・3」「統計力学1・2」への導入教育として位置づけている。基幹科目としてはさらに「電磁気学1・2・3」、その他の学科専門科目として「相対性理論」「生物物理学序論」「生物物理学1・2」などを用意している。また「力学1・2演習」「電磁気学1・2演習」などの演習科目や「物理数学1・2・3・4」を通じて、各講義科目におけるより実践的な理解を目指している。さらに、より確実な基礎力・理解力の向上を目指して「物理学特別演習」「電磁気学特別演習」を設置している。実験科目として2年次の「物理学実験1・2」、3年次の「物理学実験3・4」において、物理現象の基礎から応用までを幅広く実践し、理解を深めていく。これらの学習の集大成として「ゼミナール」「卒業研究」において</p> | | | | |

特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など）

| | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|
| b | <p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。</p> <p>【200字～400字程度】</p> | <p>理工学部の特色ある教育としては「卒業研究・卒業設計」を必修としており、単位付与に際し卒業論文の提出を義務にしている【4(2)-6-6:41～42頁,52頁,65～66頁,77頁,85頁,92頁,100～101頁,108頁】。また、総合文化科目や基礎化学実験、基礎物理学実験といった科目において、無学科学混合制を導入することで、学科の枠を越えた学生交流が生まれ、理学と工学の融合が推進されている。1・2年次学生向けの少人数の教養教育科目である「総合文化ゼミナール」では、人間・文化・社会についてディスカッションやプレゼンテーションを通じて学ぶことができることも特色として挙げられる【4(2)-6-7:6頁】。また、大学院科目先取り履修を実施することで学部と大学院の連携教育の推進を行っている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 4(2)-6-6:2014年度理工学部便覧：41～42頁,52頁,65～66頁,77頁,85頁,92頁,100～101頁,108頁 4(2)-6-7:2014年度理工学部便覧：6頁</p> |
|---|--|--|--|--|--|--|--|

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|---|---|---|----------------------|---|--|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | | | | | Alt+Enterで箇条書きに |
| 学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定、短期海外交流など) | | | | | | |
| c ●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】 | 学部間独自の国際的な教育交流として、海外の大学との学部協定は4件（国立台湾科技大学設計学院、シンガポール国立大学設計・環境学部、ケープタウン大学工学・環境工学部、チュラロンコン大学建築学部）を2012年度までに締結していた。2013年度はさらに2件「国立台北科技大学機械電気工学部」、「パリ・カトリック大学パリ電子工学院」との協力協定書を締結し、「シンガポール国立大学設計・環境学部」とは学生交流計画の実施に関する覚書を交わした。また、「パリ国立建築大学」とは2010年度より学生交流を行っている。これら協定校からの交換留学生の受入れは2012年度4名、2013年度8名をチュラロンコン大学建築学部から受入れた。2014年度はチュラロンコン大学建築学部から4名、シンガポール国立大学設計・環境学部から2名の受入れを予定している【4(2)-6-6:表19】。マレーシアとのツイニングプログラムであるマレーシアJAD編入学試験を実施している。学生はマレーシアで3年間の予備教育及び大学教育を受け、本学部の3年生に編入する。1年生から本学部に在籍するのに比べて低コストのため学生の負担が少なく、また現地には日本の大学から講師が派遣されており、授業の質が確保され、理工学に関する十分な基礎知識を持つ優秀なマレーシア人学生を獲得し、日本人学生との交流が進んでいる。なお、3カ年の入学実績は2011年が4名、2012年が9名、2013年が4名である。 | 2007年度認証評価指摘事項において、キャンパスの国際化が進んでいないとの指摘があり、留学生と交流する仕組みが確率しつつある【4(2)-6-8】。 | | 国際化を推進し、世界に開かれた学部とすることを目指し、「国際連携推進委員会」において、2013年5月にバンコク（タイ）に開所した本学アセアンセンターを活用した新しい学生交流プログラムを検討する。建築学科では、チュラロンコン大学建築学部からここ数年留学生を受け入れているが、日本人学生の送り出しについては実現していないため、制度設計し、交流を促進する。 | | 4(2)-6-1 明治大学大学データ表19 4(2)-6-8 改善アクションプランNo. 208 |

第4章 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|---|----------------------|---|--|---|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| (1) 教育方法及び学習方法は適切か | | | | | | | |
| 教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性 | | | | | | | |
| a | <p>◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】</p> | <p>理工学部の各科目は基礎科目から応用科目へと段階的に学習するようになっている【4(3)-6-1:6頁】。1・2年次の総合文化ゼミナールでは少人数で行われ、人文的教養を身に付けるとともにコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を養う。理系基礎科目では講義科目の他に「基礎物理学実験1・2」及び「基礎化学実験1」を必修とし、現象の理解を深める。学科専門科目においても、数学科を除いて講義科目・演習系科目の他に実験あるいは設計科目を必修としており、各学科において特長のある内容となっている。実験科目は、「基礎物理学実験1・2」「基礎化学実験1・2」から構成されており、全学科で「基礎物理学実験1・2」「基礎化学実験1」が必修科目となっている。基礎物理学実験では、物体の運動、熱、電気、音、光、原子など物理学の幅広い分野に関する基本的なテーマを取り上げている。各テーマにはシミュレーション、写真、動画などの視覚的な素材をふんだんに取り入れたデジタルコンテンツを用意して実験前の説明を行っている。ほとんどの学生は初めて物理学実験を行うので、実験がイメージできるように配慮している。また、これらのコンテンツは自宅からインターネットで閲覧でき、予習やレポートの作成に利用できる環境を整えている。各自が実験装置に直接触れ、測定を行うことで、実験レポートの書き方、グラフの書き方、有効数字の扱い方等、実験・研究に必要な基礎的知識や能力を身につけることができる。基礎化学実験では、「化学実験の入門から最先端技術まで」をテーマに、身の回りにおける物質・材料・資源に関する実験を通して科学的探求能力を養い、生活の中にある「化学」に気づき理解を深める。『電池』『高分子材料』『セラミックス』の3課題で、理工系の学生に必要な安全教育を実施し、基礎的な化学操作を習得できる内容となっている。実験終了時にリザルトシートを提出させ、教員との対話により理解を深めることができる。総合文化ゼミナールや基礎物理学実験、基礎化学実験は無学科混合クラスで授業を実施しており、文系範囲まで跨る多角的な視野の形成や理学と工学の融合がなされるだけでなく、学科の枠を超えた学生同士の交流が促進され、基礎段階で学科に偏ることのない知識の習得に役立っている。</p> <p>学科の特徴的な実験について、電気電子生命科学科では、電気電子工学実験室・電子通信工学実験室・生命実験室の設備を利用した電気諸量の計測に関する実験や電気機器通信・制御工学・生体工学・電気電子材料や生体高分子などの物性に関する実験を行っている。機械工学科・機械情報工学科では、工作場での工作機械を利用した実習を行っている。建築学科では、構造物試験棟や振動実験解析棟を利用して、建築構造実験を行っている。応用化学科では、免震構造・作業環境の安全や衛生に優れた第二校舎D館を利用し、粉末X線解析装置などの高度な設備を用いて様々な実験を行っている。情報科学科では、合計9室の情報処理教室で情報リテラシー教育やプログラミング実習を行っている。物理学科では、実験を抜きにして自然界の物理を理解することは不可能であるため、種々の測定法に慣れるとともに様々な物理現象を体験するように実験科目を用意している。</p> <p>外国語教育についてはTOEIC®試験に対応した英語力を養う目的で、マルチメディア型の英語学習システムALC Net Academyを導入し、理工学部・同研究科、農学部、同研究科、国際日本学部、総合数理学部の学生が利用可能である。この導入により、1年生全員必修のeラーニング自学自習ソフトを使った「英語コミュニケーション1・2」を開講した。ALC Net Academyは、学内の端末またはMIND（明治大学総合情報ネットワーク）に接続したコンピュータからのみアクセスでき、MINDにVPN接続することによって、学外のコンピュータからもアクセスすることができるため、自宅でも学習が可能である。この仕組みにより、授業以外でも英語を学習する機会が増えており、2013年度入学者が2013年4月から2014年5月までに、ALC Net Academyスタンダードコースで学習した回数と時間の平均値は53回、6時間3分となっている。1・2年生向けの少人数教養教育科目「総合文化ゼミナール」では、1・2年生向けに少人数教養教育科目「総合文化ゼミナール」では、人間・文化・社会について学ぶ際にディスカッションやプレゼンテーションを行う。</p> <p>実験科目は、「基礎物理学実験1・2」「基礎化学実験1・2」から構成されており、全学科で「基礎物理学実験1・2」,「基礎化学実験1」が必修科目となっている。</p> <p>基礎物理学実験では、物体の運動、熱、電気、音、光、原子など物理学の幅広い分野に関する基本的なテーマを取り上げている。各テーマにはシミュレーション、写真、動画などの視覚的な素材をふんだんに取り入れたデジタルコンテンツを用意して実験前の説明を行っている。ほとんどの学生は初めて物理学実験を行うので、実験がイメージできるように配慮している。また、これらのコンテンツは自宅からインターネットで閲覧でき、予習やレポートの作成に利用できる環境を整えている。基本的なテーマをその現象が分かり易いように実験を組立て実験に対する理解が深まるよう、実験中に解説を行う。各自が実験装置に直接ふれ、測定を行うことで、実験レポートの書き方、グラフの書き方、有効数字の扱い方等、実験・研究に必要な基礎的知識や能力を身につけることができる。</p> <p>基礎化学実験では、「化学実験の入門から最先端技術まで」をテーマに、身の回りにおける物質・材料・資源に関する実験を通して科学的探求能力を養い、生活の中にある「化学」に気づき理解を深める。『電池』『高分子材料』『セラミックス』の3課題で、理工系の学生に必要な安全教育を実施し、基礎的な化学操作を習得できる内容となっている。実験終了時にリザルトシートを提出させ、教員との対話により理解を深めることができる。</p> <p>上で挙げた、総合文化ゼミナールや基礎物理学実験、基礎化学実験は無学科混合クラスで授業を実施しており、文系範囲まで跨る多角的な視野の形成や理学と工学の融合がなされるだけでなく、学科の枠を超えた学生同士の交流が促進され、基礎段階で学科に偏ることのない知識の習得に役立っている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 4(3)-6-1 2014年度理工学部 便覧：6頁</p> |
| b | <p>●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】</p> | <p>理系基礎科目については、理工学研究科に所属する大学院生により学習のサポートを行う学習支援センターの利用を勧めている。1年生全員必修のeラーニング自学自習ソフトを使った「英語コミュニケーション1・2」を開始した。ALCによる自学自習が可能となるように、空き時間・空き教室にTAを配置している。</p> <p>1・2年生向けの少人数教養教育科目「総合文化ゼミナール」では、人間・文化・社会について学ぶ際にディスカッションやプレゼンテーションを行う。</p> <p>実験科目は、「基礎物理学実験1・2」「基礎化学実験1・2」から構成されており、全学科で「基礎物理学実験1・2」,「基礎化学実験1」が必修科目となっている。</p> <p>基礎物理学実験では、物体の運動、熱、電気、音、光、原子など物理学の幅広い分野に関する基本的なテーマを取り上げている。各テーマにはシミュレーション、写真、動画などの視覚的な素材をふんだんに取り入れたデジタルコンテンツを用意して実験前の説明を行っている。ほとんどの学生は初めて物理学実験を行うので、実験がイメージできるように配慮している。また、これらのコンテンツは自宅からインターネットで閲覧でき、予習やレポートの作成に利用できる環境を整えている。基本的なテーマをその現象が分かり易いように実験を組立て実験に対する理解が深まるよう、実験中に解説を行う。各自が実験装置に直接ふれ、測定を行うことで、実験レポートの書き方、グラフの書き方、有効数字の扱い方等、実験・研究に必要な基礎的知識や能力を身につけることができる。</p> <p>基礎化学実験では、「化学実験の入門から最先端技術まで」をテーマに、身の回りにおける物質・材料・資源に関する実験を通して科学的探求能力を養い、生活の中にある「化学」に気づき理解を深める。『電池』『高分子材料』『セラミックス』の3課題で、理工系の学生に必要な安全教育を実施し、基礎的な化学操作を習得できる内容となっている。実験終了時にリザルトシートを提出させ、教員との対話により理解を深めることができる。</p> <p>上で挙げた、総合文化ゼミナールや基礎物理学実験、基礎化学実験は無学科混合クラスで授業を実施しており、文系範囲まで跨る多角的な視野の形成や理学と工学の融合がなされるだけでなく、学科の枠を超えた学生同士の交流が促進され、基礎段階で学科に偏ることのない知識の習得に役立っている。</p> | | | | | |
| 履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫 | | | | | | | |
| c | <p>◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。(学部) 【約200字】</p> | <p>各年次の1年間の履修科目登録の上限単位数は1年次52単位、2年次52単位、3年次48単位、4年次46単位に設定している。また、進級制限を設けており、1年次より2年次へは22～26単位以上(学科により異なる)、2年次より3年次へは64単位以上という条件を設定している。また、3年次修了までに104～110単位以上(学科により異なる)かつ各学科で指定した科目の単位を修得していなければ、4年次での卒業研究・卒業設計の履修ができない制度としている【4(3)-6-2:9～11頁】。</p> | | <p>1年次と2年次において年次履修上限単位数が50単位以上となっている【4(3)-6-2】。</p> | <p>2015年度カリキュラムでは各学年49単位を上限とすることを定めた【4(3)-6-3】。</p> | <p>①現状の説明 4(3)-6-2 2014年度理工学部便覧：9～11頁 ③発展計画 4(3)-6-3 理工学部教学委員会(2013年11月5日開催)審議事項7、「2015年カリキュラム改定WG報告について」</p> | |

| 点検・評価項目 | | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|---|--|---|--|--|---|---|--|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | G列の点検・評価項目について、必ず記述してください | | | | | Alt+Enterで箇条書きに |
| d | ●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】 | 履修指導について、4月の各学年ガイダンス時において、重要な科目や卒業に向けて必要な条件あるいは受講方法などについて、各学科で履修指導を行っている。JABEEを実施している機械工学科・機械情報工学科では、2年次から4年次に対して年度初めの履修届提出と同時にチェックシートの提出が義務付けられている【4(3)-6-4】。また、2015年度JABEE受審予定の建築学科においても2013年度から2～4年生に対してチェックシートの配付が行われ、3年生には提出が義務づけられている。このチェックシートには前年度の単位取得状況と、今年度の履修申請状況の両方を各学生が入力する。これらのデータをチェックシートに打ち込み、その結果を確認することにより、学生自身に達成度の自己点検を行わせる仕組みとなっている。 | JABEEを実施している2学科および2015年度にJABEEを受審予定の建築学科については学習実態の把握がなされている。 | | 学生の学修実態を的確に把握するために、JABEEを実施または受審予定でない他の5学科の学習ポートフォリオについては、Oh-o!Meijiシステムに用意されたポートフォリオ機能の活用を検討するよう、教員に働きかける。 | | 4(3)-6-4 自己点検票 |
| 学生の主体的参加を促す授業方法(学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等) | | | | | | | |
| e | ●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】 | 理系基礎科目及び専門科目の一部については、学習支援センターを設置し、理系基礎科目の学習相談・学習サポートを主にして、学生の様々な学習相談にTA(理工学研究科に所属する大学院学生)が対応している。学習支援センターは、教務主任が運営の責任を持ち、大学院学生で教科内容を詳しく、学生の指導に熱心な学生を大学院の専攻主任や系主任に推薦してもらい割り当てている。そして、授業実施期間の月曜日～金曜日の授業時間中と昼休みにTAを配置し、1～2年生の講義科目の実施時間とぶつからないようにTAの時間調整を行っている。主な担当科目は数学・物理・化学などの基礎科目と、基礎実験、各専門の難易度が高い講義演習科目である。質問などは、担当教員にフィードバックし、教員の教え方などの向上にも役立っている。また、基礎実験、学科専門の実験についてもTAを割り当てている。実験などの実習科目では、少人数(2～4名程度)のグループ内で、安全の確認、実験の目的、目標、内容の確認を教員の指導のもと行い、自分たちで計画を立てることにより深い理解を得られる。TAは学生の目線からアドバイスを行うことで、学生の自主的な実験が機能している。理工学部では、卒業研究・卒業設計が必修となっており、研究室で教員だけでなく、学生同士が協力しながら研究を遂行する経験を積める。特に4年生にとっては、身近な大学院学生が研究や実験装置の使い方、作り方などのアドバイスを行うことで、自ら学ぶ授業方法となっている。 | | | | | |
| (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか | | | | | | | |
| a | ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること 【約300字】 | シラバスには、全学部統一の様式を用い、授業の概要・到達目標、授業内容、履修上の注意点・準備学習の内容、教科書・参考書、成績評価の方法を記述している。学生には、ホームページ上でシラバスを公開しており【4(3)-6-5】、学生個人ポータルサイトであるOh-o!Meijiシステム上でも公開している。記載項目の標準化を図り、毎年各教員が見直しを行っており、必要があれば修正をしている。 | 講義科目と研究指導科目の「成績評価方法」の項目については、教学委員会から速やかに改善するよう求めるなどの取組を行い、未記入0件となった。 | シラバスを読まず、授業の目的を理解せずに履修している学生が少なくない。授業の到達目標を理解し、そのための予習へとつながるように学生を指導していく必要がある。 | 引き続き各教員に対して、シラバスの内容の充実を求めていく。 | 各教員がシラバスを説明し授業を履修している学生に対して授業初回にシラバスを一読し授業の到達目標を理解するように適宜促す。 | 4(3)-6-5 理工学部ホームページ「理工学部シラバス」 http://www.meiji.ac.jp/ss/t/zimushitsu/syllabus.html |
| b | ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】 | シラバスの到達目標の達成度について、毎学期に実施している授業改善のためのアンケートにおいて【4(3)-6-6】、「担当教員・シラバスの設問」の中で7つの調査項目から、調査している。同様に、学生の学習意欲は「自己評価の設問」の中で3つの調査項目によって学習実態を把握している【4(3)-6-6】。 | | | | | ①現状の説明 4(3)-6-6 学生による授業改善のためのアンケート(設問用紙、日本語・英語併記) |
| c | ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】 | シラバスは「教学委員会」が編集の責任主体となっており、各教員に全学部統一書式での執筆を依頼している。内容に関しての点検は学部の教学に関することを審議する教学委員会の委員が点検しており【4(3)-6-7】、必要があれば修正をかけている。 | | | | | ①現状の説明 4(3)-6-7 2014年度 理工学部シラバス原稿校正のお願い |
| (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか | | | | | | | |
| a | ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】 | 成績評価に対する学生の疑義については、事務室を通じて担当教員が対応している。JABEE認定の機械系2学科およびJABEE受審予定の建築学科については、授業実施報告書の提出を義務付けており、これを精査するなど厳格な成績評価の確保が行われている【4(3)-6-8】。さらに、複数教員が担当する科目については、担当者間の会議を実施し、成績評価の標準化を図っている。機械系2学科および建築学科以外においても評価基準に基づき厳格な評価を行っている。ただし、理系基礎科目や外国語科目などの同一科目複数クラス間の成績評価の公平性を担保する方策が必要であり、このことについては「改善アクションプラン」において2015年度カリキュラム改定に向けて教学委員会等で検討を行っている。 | | GPAを上げるために履修科目を少なめに取る学生がいる。 | | GPAが学生の学業成果を表す適正な数値となるよう検討していく。 | 4(3)-6-8 授業実施報告書 |
| b | ◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】 | 単位の認定については学則に基づき、学生が外国の協定校や認定校に留学し、修得した単位については教授会の審議によって本学の単位として認定している。他大学からの編入学生の既修得単位についても、教授会の審議により適切に認定している。 | | | | | |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|--|--|---|--|--|---|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| <p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか</p> | | | | | | | |
| a | <p>◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】</p> | <p>教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な研修・研究の機会として、数学科、JABEEを実施または受審予定の3つの学科、語学を担当している総合文化教室では学部と協力して毎年3月に専任と兼任の教員が一堂に会し、授業内容、成績評価等について議論している【4(3)-6-9】。 教学委員会において学生の主体的な学修の活性化と教育指導方法の改善についての議論や集計結果の吟味検討を行い、FD委員会において、学生による授業改善アンケート内容の検討、各学科におけるFD活動のための情報提供とその結果の取りまとめをしている。機械工学科、機械情報工学科および建築学科の授業を担当する教員は、授業改善アンケートの結果に基づき、改善プランを授業実施報告書に記載し、次年度以降の授業実施に反映させている。建築学科と数学科では年1回、応用化学科では年2回、兼任講師を招いた懇談会を開き、基礎理系科目と学科専門科目について授業計画と反省の話し合いがなされている【4(3)-6-10~11】。物理学科の教員は集計結果をもとに定期的にメール審議を行っている【4(3)-6-12】。総合文化教室でも年1回兼任講師を交えた懇談会を開き語学科目等の授業計画の打ち合わせが行われている【4(3)-6-13】。</p> | <p>数学科および総合文化教室が実施している専任・兼任の教員懇談会では、機械工学科、機械情報工学科、建築学科も参加することで、専門教育に繋がる理系基礎や総合文化科目の授業内容について意見交換を行って、改善に取り組んでいる。</p> | | <p>海外研修を受けた教員や様々な学外におけるFD研修会に参加した教員を講師とした報告会を開催する。</p> | | <p>①現状の説明 4(3)-6-9 2013年度建築学科教員会議議事録 4(3)-6-10 教科打ち合わせ会議事録(数学科) 4(3)-6-11 基礎化学懇談会(第1回・第2回) 4(3)-6-12 2013年度「基礎物理学1・2」アンケート集計結果 4(3)-6-13 2013年度総合文化科目・外国語科目教員連絡会議記録</p> |
| b | <p>●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】</p> | <p>学生による授業改善アンケートについては、理工学部は2012年度までは理工学部版授業改善アンケートを実施していたが、2013年度より全学部版の「授業改善のためのアンケート」を実施している【4(3)-6-14】。この結果、2013年度から、全学部統一の授業改善アンケートに変更し、全学的な比較ができるようになった。2013年度のアンケート実施率は、前期45.1%、後期39.9%であった。学部全体の集計結果、科目別集計結果は理工学部教授会で公開することを決定しており、学生・教員への公開準備を進めている。アンケート結果は、科目毎に回答項目が棒グラフで表された一覧表が作成され、教員に送付される。さらに、自由記入欄についても各教員が確認できるようになっていて、授業改善に役立っている。教員個人が、その結果を反省材料として受け止めている。なお、アンケート結果については学生が理工学部窓口で自由に閲覧できるようになっている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 4(3)-6-10 授業改善のためのアンケート</p> |
| c | <p>●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】</p> | <p>教育内容等については、各専攻・系の会議にて検討され、カリキュラム等に変更がある場合は「教学委員会」に提案され、承認される手続きとなっている。</p> | <p>現状では、教員個別の教育指導方法の改善は各教員と学科に任せられており、結果的に学科間でばらつきが生じている。また、学部として授業改善アンケートを組織的に活用するには至っていない。</p> | | <p>授業改善を指導する権限については大学全体で議論を進める。</p> | <p>①現状の説明 4(3)-6-11 2013年度教学委員会報告書 4(3)-6-12 2013年度委員会報告書 4(3)-6-13</p> | |

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | 現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに |
|--|--|--|---|----------------------|---|---|--|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか | | | | | | | |
| a | ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】 | 卒業時の学習成果を測定する評価指標として、全学科で「卒業研究・卒業設計」を必修とし、ディプロマポリシーに定めている能力の達成度を確認している。またJABEEの認定を受けている機械工学科・機械情報工学科及び建築学科(2015年度申請予定)においては、学期ごとに試験問題とその模範解答、採点答案、採点評価一覧、および、授業実施報告書を提出する。授業実施報告書では履修者数・授業回数など数値データのほか、授業に用いた資料・授業で工夫した点・成績評価とその基準(到達目標)について報告することになっている。各学科とも最終学年時には研究発表会が行われ、ここでは研究の達成度のみならずプレゼンテーション能力も審査の対象とされる。研究発表会開催の方法及び研究内容をまとめた卒業論文の作成については各学科独自の方法で行われている。 | | | | | |
| b | ●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。【約800字】 | 学習の成果として学位授与にあたり重視する科目として、学生が専任教員の研究室に所属して指導を受ける「卒業研究・卒業設計」を必修科目として、さらに卒業研究を履修するための条件を学科ごとに定めている【4(4)-6-1:32, 44~45, 57, 69~70, 79, 86~87, 94, 103頁】。一部の学科では「卒業研究2」の履修者には4年間の勉学の集大成として「卒業研究審査会」を実施している。これは研究内容をプレゼンテーションし、教員3名が審査するもので、学力の客観性を担保している。2013年度の学位授与率は85.2%である【4(4)-6-2:表30】。卒業後の進路について、理工学部の就職率は48.4%であり、各学科に関連した電気、機械、建築、化学、IT、教員、公務員と多岐にわたり、幅広い分野において活躍できるデザイン能力あふれる技術者や研究者を育成するという本学部の目的と合致している。また、本学部においては、卒業生の40.0%が本学の大学院へ進学している【4(4)-6-2:表32】。 | | | | | ①現状の説明 4(4)-6-1 2014年度理工学部便覧: 32, 44~45, 57, 69~70, 79, 86~87, 94, 103頁 4(4)-6-2 明治大学データ |
| c | ●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか 【約400字～600字】 | 学生の自己評価については、JABEEの認定継続審査を受けた機械系学科(機械工学科と機械情報工学科)および受審予定の建築学科では、学生に達成度を自己評価させるための年度の初めにチェックシートを配付している【4(4)-6-3】。さらに、審査会に卒業生を招待して、在学時の教育内容・方法に対するアンケートを実施している。そして、審査会終了後に全ての学生が最終的な達成度をチェックシートで確認している。一部の学科において就職先の企業とは就職委員を通じて卒業生の評価をヒアリングしている。 | 機械工学科・機械情報工学科・建築学科(2015年申請予定)では、本学の卒業生が就職した企業に対して、本学の学生に対する満足度を就職委員が調査し、学科会議でその結果を議論しており、就職した企業の評価を踏まえて教育課程や内容、方法等の改善につなげている【4(4)-6-4~5】。 | | 就職先の企業に対する調査は、就職委員を通じて行うことが有効であると判明しているので、全ての学科で実施できるように体制を整える。さらに、ホームカミングデーなどで来校した卒業生を中心に、在学時の授業内容などについて意見を抽出する。 | | 4(4)-6-3 自己点検票 4(4)-6-4 2015カリキュラム改訂検討WG中間報告(その1) 4(4)-6-5 機械情報工学科求人情報 |
| (2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか | | | | | | | |
| a | ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】 | 卒業要件単位数は132単位であり、便覧を通じて学生に周知している【4(4)-6-1:41, 54, 67, 82, 91, 98, 106~107, 114頁】。学位授与方針に記載してある修得単位数や具体的到達目標と照合しつつ判定し、「教授会」の議を経て学位の授与が決定される。卒業にあたって4年次には卒業研究・卒業設計は必修科目としている。 | | | | | ①現状の説明 4(4)-6-1 2013年度理工学部便覧, 41, 54, 67, 82, 91, 98, 106~107, 114頁 |
| b | ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】 | 明治大学学則および明治大学学位規程に基づき、学位授与方針に記載してある修得単位数や具体的到達目標と照合しつつ判定し、教授会規程第7条に定められた教授会の議を経て学位の授与が決定される。2013年度も教授会の議を経て(2014年2月27日開催)、学位の授与が決定された【4(4)-6-6】。卒業研究・卒業設計の単位認定は、「タイトル提出」、「中間審査」等の段階を経て、指導教員及びその他の教員も含めた「卒業研究・卒業設計発表会(名称は学科によって異なる)」において、発表・質疑によって審査される。年間を通じて厳格に指導しており学位授与は適切である。 | 学位授与の要件は便覧等で明記されているだけでなく、年度開始時に行われるガイダンスでも周知されており、明確である。 | | 学位授与に関する責任体制は各学科の学科会議、理工学部全体で行われる教学委員会・教授会と明確であるが、審査会等のプロセスは多少学科で相違があるので、ある程度まで統一されるように検討する。 | | ①現状の説明 4(4)-6-6 合同教授会2014年2月27日開催、議題5「2013年度理工学部進級・卒業研究履修・卒業判定」 |

第5章 学生の受け入れ

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに |
|--|--|---|--|--|--|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか（「AP」の全文記述は不要です） | | | | | | |
| 求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表 | | | | | | |
| a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】 | 理工学部の入学者の受入方針において、入学志願者に求める高校等での学習への取り組みのなかで、「理工学部では、上記の教育目標を踏まえ、数学、理科、外国語については、基礎知識のみならず応用問題にも適応できる十分な学力を身につけている学生を求め、また、理系科目のみならず幅広い分野の基礎学力を身につけておくこと」と定めている。入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している【5-6-1~2】。 | | 指定校推薦入試では高校側に本学部のAPを十分に理解してもらえず、入学が適当でない受験生を推薦されることがある。 | | 指定校推薦入試で入学してきた学生の成績を追跡調査し、不本意入学学生を例年推薦してきている高校には警告を与える。 | ①現状の説明 5-6-1 2014年度明治大学入学試験要項（学部一般入試、センター利用入試、全学部統一入試：6頁 5-6-2 理工学部ホームページ「理工学部入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）」： http://www.meiji.ac.jp/sst/policy/03.html |
| b ●該当する事項があれば説明する 【約200字】 | 入学受け入れ方針には、多様な学生に入学機会を与えることを掲げており、「障がいをもった学生の受け入れ」は、中でも重要なことである。入学試験要項には、出願にあたって健常者との入試で不利益を被らないような措置を行うことや、入学後の学習支援体制を整備するため申し出るように記載している。合格後の対応については、教務主任及び当該学科長等で相談し、対応を整備している。 2014年度一般選抜入学試験においては、7名の障がい者より受験時の配慮について申し出があり、本学内部審議の結果、病状に応じて別室設定、教室の出入口付近の座席配置、入試問題の訂正が発生した場合は文書による伝達等の対応を行った。 また、合格者には入学の意思、及び入学意思がある場合の入学後に希望する措置について本人及び保護者に確認し、教務主任及び当該学科長との協議のうえ、対応を決定した。 | | | | | |
| (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか | | | | | | |
| a ●学生の受け入れ方針と学生募集、入学選抜の実施方法は整合性が取れているか。（公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか） 【約400字】 | 基礎学力を持ち、問題解決に役立つ応用力を身につける意欲のある学生を獲得するため、下記の方法で入学選抜を実施し、受験生の能力を適切に判定する。 一般入試については基礎学力が十分あるのかを判断するため、「一般選抜入試」は3教科4科目受験（数学、英語、理科。理科は物理3題、化学3題から任意の3題を選択）であり、解答はマークシート・記述式併用方式としている。「センター試験利用入試」は3教科4科目受験及び4教科5科目受験であり、センター試験の成績のみで可否を判定している。「全学部統一入試」は3教科4科目でありマークシート方式にて実施する。 特別入試については、「AO入試」、「スポーツ特別入試」、「外国人留学生入試」を、推薦入試については、「指定校推薦入試」、「付属高等学校推薦入試」を実施している。これらは学科によって試験方法が異なるが、学力調査（記述式）、小論文、実験実技、プレゼンテーション、面接試験を実施し、応用力や意欲を判断している。 また、「編入学・学士入試」は、数学、外国語、理科（物理または化学）、専門科目（学科によって実施有無が異なる）の試験、面接試験を実施する。 | | 入試における出題ミス等を最小限に抑えるために、校正の回数を増やすなど量的な対策も必要であるが、質的な改善を図る対策も必要であろう。 特別入試による入学者と一般選抜入試による入学者とに間に学力差が生じている。 | | 特別入試のうち、指定校推薦入試については、学校の選定および推薦基準の見直しを入試委員会を中心に実施する。 | |
| (3) 適切な定員を設定し、入学を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか | | | | | | |
| 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 | | | | | | |
| a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。また、学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である（学士課程）。 【約200字】 | 過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.10で、学科ごとの比率は、電気電子生命学科では1.08、機械工学科では1.10、機械情報工学科では1.06、建築学科では1.13、応用化学科では1.12、情報科学科では1.11、数学科では1.18、物理学科では1.07である。また、2013年度の収容定員は4学年で3,700名、在籍学生数は4,207名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.14である。学科ごとの比率は、電気電子生命学科では1.14、機械工学科では1.11、機械情報工学科では1.09、建築学科では1.15、応用化学科では1.14、情報科学科では1.12、数学科では1.14、物理学科では1.10である【5-6-3：表35】。 | | 数学科の入学定員に対する入学者比率（5年間平均）が1.18となっている【5-6-3：表35】。これは2010年度入試の際に手続率を見誤り入学者数比率が1.4となったことが大きな原因である。 | | 手続率をより慎重に予想し、入学者比率を適正値に維持するよう努力する。 | 5-6-3：明治大学データ集 |
| 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応 | | | | | | |
| b ◎現状と対応状況 【約200字】 | 入学予測には細心の注意を払っている。2014年5月1日現在、学生収容定員と在籍学生数についても、著しいずれは生じていない【5-6-3：表35】。基本的に入学定員を過不足なく満たす方針であるが、入学定員と入学者数に著しい誤差が生じないようにしている。 | | | | | 5-6-3：明治大学データ表35 |
| (4) 学生募集及び入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか | | | | | | |
| a ●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】 | 自己点検委員会で検討し、加筆・修正が必要な場合は執行部会で議論し、さらに「入試委員会」「総務委員会」で審議し、「理工学部・理工学研究科合同教授会」において承認している【5-6-4】。また、入学試験制度の検証については、学部の「入試委員会」において、一般入試、指定校等の推薦入試、特別入試のあり方を検討している。入学試験終了後には、執行部で入学選抜に関する総合的な入試検討会を開催している。 | 入試事故に対する危機管理体制としては、試験実施中に出た受験生からの質問に対しては速やかな協議のもとで適切な回答を出せる体制を組んでおり、試験会場ではそれが生かされている。 | | 一般入試では本学部の試験が最初となり、先例となるデータが少ない。過去の実施状況をj確認するなど、周到な準備態勢を整えている。 | | 5-6-4 理工学部・理工学研究科合同教授会議事録、2013年11月15日開催、「理工学部3ポリシーについて」 |

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | 現状の説明 ○列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに |
|--|---|--|--|---|---|--|------------------------------|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | |
| (1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか | | | | | | | |
| a | ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】 | 修学支援に関する方針、組織はないのが現状であるが、b項のとおり仕組みで修学支援を実施している。 | | | | | |
| b | ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】 | 理工学部では、障がいのある学生対応として、入学以前にヒアリングを行い、当該学生に対する支援の確認を行い、入学後は学生にボランティアを呼びかけ生活のサポートをしている。 留学生に関しては、年度始めに留学生対象にガイダンスを実施し、また、国際交流ラウンジにTAを配置し学習のサポートをしている。 教学委員会において修学支援の現状把握と対処方策を検討している。 原級者には、各学科の教学委員を中心にガイダンスと併せて個別面談を実施し、原級した理由の確認、今後の学生生活・履修・勉学上の注意点をアドバイスしている。 理工学部では、退学の場合、退学願提出前にクラス担任もしくは卒業研究・卒業設計担当教員との面談を義務付けている。教員による、退学に至るまでの相談業務を充分に行い、退学理由を把握している。退学理由は教学委員会及び教授会においても再確認している。 2013年度の退学者数は、97名である【6-6-1:表40】。 学習支援室を開設しており、数学・物理・化学・情報などのつまづきやすい専門科目・基礎教育科目の支援を行っている。 | 履修登録が確定した時点において、事務的な確認により履修条件を満たしていない学生に対して各種連絡手段による呼び出しを行い、本人との面談の上、修正作業が行われており、留年者数に歯止めをかけている。 | | 不登校の学生に対して原級を防止するため、事務局からの電話や文書、Oh-o!Meijiシステムによる連絡のみならず、保護者との連携も図っている。 | | ①現状の説明 6-6-1 明治大学データ集:表40 |
| a | ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】 | 修学支援に関する方針、組織はないのが現状であるが、b項のとおり仕組みで修学支援を実施している。 | | | | | |
| b | ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】 | 就職指導委員会を設置し、就職キャリア支援事務室に加え、各学科の就職指導委員が窓口になって就職活動にかかる学生からの相談、質問に対応する体制ができています。なお、委員長は学部長推薦により選出され、教授会で承認を得る。 大学院進学に対する異議などを「講演会：キャリアとしての大学院進学」として社会人の実体験に基づいた講演を実施している。学部生に大学で学ぶ意義を考えてもらい、さらに、進路のひとつの選択肢として大学院の存在を教えている。なお、大学院への進学者が卒業生の4割程度となっている。 卒業生のおよそ5割が就職、4割が進学しており、それ以外の者は1割を切る。この数値は進路状況は比較的良好であると考え【6-6-1:表32】。 | | 資格試験等の受験に失敗して就職浪人となる学生も出てきてしまうが、その数が少しでも少なくなるような指導が必要である。 | | 受験に失敗した学生へのケアも必要である。 | ①現状の説明 6-6-1 明治大学データ集:表32 |

第10章 内部質保証

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|--|---|-------------------------|---|--|---|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | | | | | Alt+Enterで箇条書きに |
| (1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか | | | | | | |
| a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】 | 本学部における自己点検・評価は、自己点検・評価委員会で行っている。合同教授会で選出された委員長1名と、各学科及び各専攻(系)から推薦された委員9名(重複を含む)、さらに総合文化教室から推薦された1名の計11名で構成している。2013年度は年に2回の委員会を開催した【10-6-1】。2012年度理工学部自己点検・評価報告書は、大学ホームページで公開している【10-6-2】。 | | 学部だけでなく、各学科においても自己点検・評価の実施を行うことが望ましい。しかしながら、学科がその作業をするには負担が大きい。 | | | 作業の負担を少しでも軽減するために自己点検・評価委員会が学科用自己点検マニュアルの作成を検討する。 |
| (2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか | | | | | | |
| a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字~1000字程度】 | 本学部の内部質保証の方針は、実績の評価については「自己点検・評価委員会」に、教育活動への反映は各運営に関する委員会が担うこととしている。自己点検・評価委員会は、点検・評価結果から改善方策を策定し学部長に報告するものであり、各運営に関する委員会は学部長・学部執行部の決定した方針に基づき審議を行い、各種改善方策の実施にあたる。この内部質保証の方針は、2004年2月17日の教授会において学部専門委員会に関する内規の改正が合意されて以降、実施されている。日常的な課題に対する改善策は、学部長・教務主任・大学院委員で構成する執行部において立案し、各種専門委員会、総務委員会、合同教授会の審議を経て実行に移している。年間の点検・評価は「運営に関する委員会」、「その他委員会」とは独立した合同教授会の専門委員会である自己点検・評価委員会が行うシステムとなっている。また、機械系学科(機械工学科、機械情報工学科)は学部の取組に加えてJABEEの受審を継続し、教育の質保証に対する取組を学科単位でも行っている。なお、各委員会は内規の定めにより活動内容を教授会において報告している。外部の意見を取り入れる方法は、外部評価と父母会懇談会が挙げられる。2013年度は機械情報工学科が外部評価を受けた【10-6-3】。一方、父母懇談会における父母からの意見は、各地区に出向いた教職員によって作成される父母会報告書にまとめられる【10-6-4】。この報告書は、執行部に報告され、必要に応じて次年度への改善点として扱う。 | | 自己点検・評価の重要性を教授会員が認識し、内部質保証の活動をより活性化させる必要がある。 | | 自己点検・評価委員会とFD委員会との関係を密接にし情報の共有化を行い、それによってPDCAサイクルの実質化を図る。また、多くの学科においては外部評価の実施を試みる。加えてJABEE受審学科を機械系以外にも拡大していく。 | ①現状の説明 10-6-3 機械情報工学科外部評価実施報告書 10-6-4 父母会報告書 |